



おもしろい土木用語・技術

「土木用語に見られる独特な言葉（掛矢：かけや）」

掛矢（かけや）とは、樫（かし）などの硬い木で作られた大型の木槌（きづち）のことです。「掛矢」は杭（くい）などを打込む時や、物を壊したりするのに用いられますが、土木の現場では、主に土工事の目標となる「丁張り*」用の杭を地中に打込むために用います。槌（つち）の部分の直径は13～15cm、全体の長さが24～27cm、柄の部分の長さが90cm程度あります。重さが3～4kgほどあるため、「掛矢」を振り回して杭を打込むことは容易ではありません。「掛矢」を上手に使いこなせるようになると、新入社員は先輩から少し認められることとなります。



工事現場で見られる「掛矢（かけや）」

丁張り（ちょうはり）：工事を着手する前に建物の正確な位置を出す作業。ここまで土を盛る・削るとか、コンクリートを流し込むとかの目印になります。

土木学会では、社会が関心をよせる土木技術の内容をわかりやすく解説します。本文の内容や知りたい言葉については、土木学会企画委員会 t-yama@jsce.or.jp までお寄せください。